

IMF、世界経済見通しを下方修正

ポイント① 世界経済は歴史的な低水準

10月10日（現地時間）、IMF（国際通貨基金）は世界経済見通しを改定し、世界の実質GDP（国内総生産）成長率は2023年は前年比3.0%で据え置かれましたが、24年は2.9%へと7月時点の見通しから0.1%ポイント下方修正されました。これらの水準は歴史的（2000～2019年）平均である3.8%を大きく下回るとしています。一方、世界の総合インフレ率は、22年の8.7%から23年は6.9%、24年は5.8%へと鈍化する見込みです。なお、それぞれの予測値は7月時点の見通しから上方修正されました。

ポイント② 地域別の経済は明暗分かれる

地域別でみると、中国は23年と24年ともに経済見通しが下方修正されました。この影響やユーロ高もありユーロ圏やドイツも下方修正となりました。一方、米国は堅調な回復をみせており、米国経済の波及効果を受け、メキシコなどの米州地域も共に上方修正されました。日本においては、23年の見通しが円安やインバウンド効果などで上方修正となりました。

ポイント③ リスクバランスは下振れ方向

IMFは世界経済にとってのリスクとして、中国の不動産危機が一段と悪化する可能性、ウクライナでの紛争激化などの地政学的緊張の高まりや気候変動に伴う混乱などによる一次産品価格がより不安定になる可能性を指摘しています。また、インフレ率は落ち着いてきたものの高すぎる水準にあり、特に短期的なインフレ期待を後退させることが重要としています。世界経済成長に対するリスクバランスは依然として下振れ方向に傾いているようです。

国・地域別実質GDP成長率見通し

(前年比、%)

	2022	2023	2024
世界	3.5	3.0 (0.0)	2.9 (-0.1)
先進国	2.6	1.5 (0.0)	1.4 (0.0)
米国	2.1	2.1 (0.3)	1.5 (0.5)
ユーロ圏	3.3	0.7 (-0.2)	1.2 (-0.3)
日本	1.0	2.0 (0.6)	1.0 (0.0)
新興・発展途上国	4.1	4.0 (0.0)	4.0 (-0.1)
中国	3.0	5.0 (-0.2)	4.2 (-0.3)
インド	7.2	6.3 (0.2)	6.3 (0.0)

(注) IMFによる予測。
 (注) ()内は2023年7月時点見通しからの修正幅、ポイント。
 (出所) IMF「World Economic Outlook, October 2023
 (https://www.imf.org/)」より野村アセットマネジメント作成

消費者物価インフレ率の見通し

(前年比、%)

	2022	2023	2024
世界	8.7	6.9 (0.1)	5.8 (0.6)
先進国	7.3	4.6 (-0.1)	3.0 (0.2)
新興・発展途上国	9.8	8.5 (0.2)	7.8 (1.0)

(注、出所) 上表と同じ。

重要イベント

10月18日 中国GDP（7-9月期）
 10月26日 米GDP（7-9月期）
 10月31日 ユーロ圏GDP（7-9月期）